

2015年度

学校教育における海洋教育拡充事業
(日本財団海洋教育促進プログラム)
報告書

2016年3月

公益財団法人 笹川平和財団
海洋政策研究所

はじめに

本事業は我が国の学校教育において海洋教育を普及させるために、それを政策的な観点から推進しようとする取り組みである。すなわち学習指導要領の中における海洋に関する教育内容の充実をはかるために必要な施策について、海洋政策と教育政策の両面からアプローチするものである。これまでのところ海洋政策面については2013年の海洋基本計画の中で学校教育における海洋教育の充実が明確に位置づけられるなど、海洋基本法制定以降の9年間で着実に進展しているが、他方で教育政策面では海洋教育に関してほとんど進展が見られないのが現状である。

学習指導要領については2014年11月に下村文部科学大臣（当時）から中央教育審議会への諮問が行われ、現在は学習指導要領の次期改訂に向けて審議が進んでいる。そして2016年度中には答申が出される予定であることから、海洋教育の普及を進めるうえで重要な時期を迎えている。第一にはこれまでわれわれ海洋関係の業界が行ってきたように、文部科学省をはじめとする教育関係機関に対して、海洋教育の重要性を訴える取り組みを継続してゆくことが不可欠である。しかしながら、ただ「学習指導要領中の海洋に関する記述を増やせ」という主張を繰り返すだけでは教育関係者には響かない。というのも次期学習指導要領の方向性は「何を知っているか」という知識の拡充ではなく、「それを使ってどのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」という資質・能力の育成にあるからである。したがって重要なのは「21世紀を担う子どもたちに必要な能力を育成するためには海洋教育が効果的だ」というロジックである。

幸い、海洋教育は教科横断的な課題解決型のテーマであり、アクティブ・ラーニングの題材としても相性がよい。加えて地方創生の議論が進む中で、地域の資源である海を活用した人材の育成はこれから我が国にとって重要な課題であり、このような点からも海洋教育はこれからの学校教育が目指す人材育成像とも合致している。当財団としては海洋教育を通じて我が国の教育政策に貢献できればと考えている。

最後になるが本事業は日本財団の助成金を受けて実施されたものであり、ご支援いただいた日本財団には心より感謝を申し上げます。

2016年3月

公益財団法人 笹川平和財団
海洋政策研究所長 寺島 紘士

目次

実施報告	1
1: 学習指導要領改訂に向けた動き	2
(1) 文部科学省における議論の動向	2
(2) 学習指導要領改訂までの戦略に関する検討	6
2: 学習指導要領改訂に向けた各種条件整備	8
(1) 教育界が必要とする条件整備	8
(2) 海洋教育推進に向けた各種活動	11
1) 福島県いわき市への協力	11
2) 宮崎大学への協力	11
(3) 海洋教育拡充に向けた政策提言等	11
1) 教育現場への海洋教育実践支援策に関する検討	11
2) 社会教育における海洋教育に関する研究	14
3: 参考資料	22
(1) 2016年度 海洋教育パイオニアスクールプログラム 募集要項案	22
(2) 海洋教育パイオニアスクールプログラム web サイト案	28
(3) 海辺の安全ハンドブック	34



實施報告

1: 学習指導要領改訂に向けた動き

(1) 文部科学省における議論の動向

2014年11月20日に開催された第95回中央教育審議会総会において、下村博文文部科学大臣は、初等中等教育における教育課程の基準等の在り方、すなわち学習指導要領等の見直しについて中央教育審議会に諮問を行った。これを受け2014年12月4日の中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会の下承を経て、同部会の下に「教育課程企画特別部会」が設置され（図1参照）、審議事項に対する検討が開始された。次期改訂の諮問では、「新しい時代を生きる上で必要な資質・能力を確実に育んでいくこと」を理念に、「教育目標・内容と学習・指導方法、学習評価の在り方を一体として捉えた、新しい時代にふさわしい学習指導要領等の基本的な考え方」、「育成すべき資質・能力を踏まえた、新たな教科・科目等の在り方や、既存の教科・科目等の目標・内容の見直し」、そして「学習指導要領等の理念を実現するための、各学校におけるカリキュラム・マネジメントや、学習・指導方法及び評価方法の改善支援の方策」の3つが審議事項の柱として設定され、それらを踏まえた具体的な手法として「アクティブ・ラーニング」が挙げられた。なお文部科学省によればアクティブ・ラーニングとは「課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習」と定義しているが、これはもともと高等教育の分野で始まった学習方法および指導方法であり、教員が一方向的に講義を行って学生はただ聞くだけというスタイルではなく、学生が能動的に学ぶことに主眼を置いた授業形態のことである。そして、これを小・中学校そして高等学校にも導入しようというのが今回の大きな特徴である。

中央教育審議会教育課程部会の教育課程企画特別部会は、新しい時代にふさわしい学習指導要領等の基本的な考え方を議論し2015年8月に「論点整理」という報告をとりまとめている。これは2030年の社会とその先の豊かな未来を築くために、初等中等教育が果たすべき役割、またそこで求められる教育課程とはどの

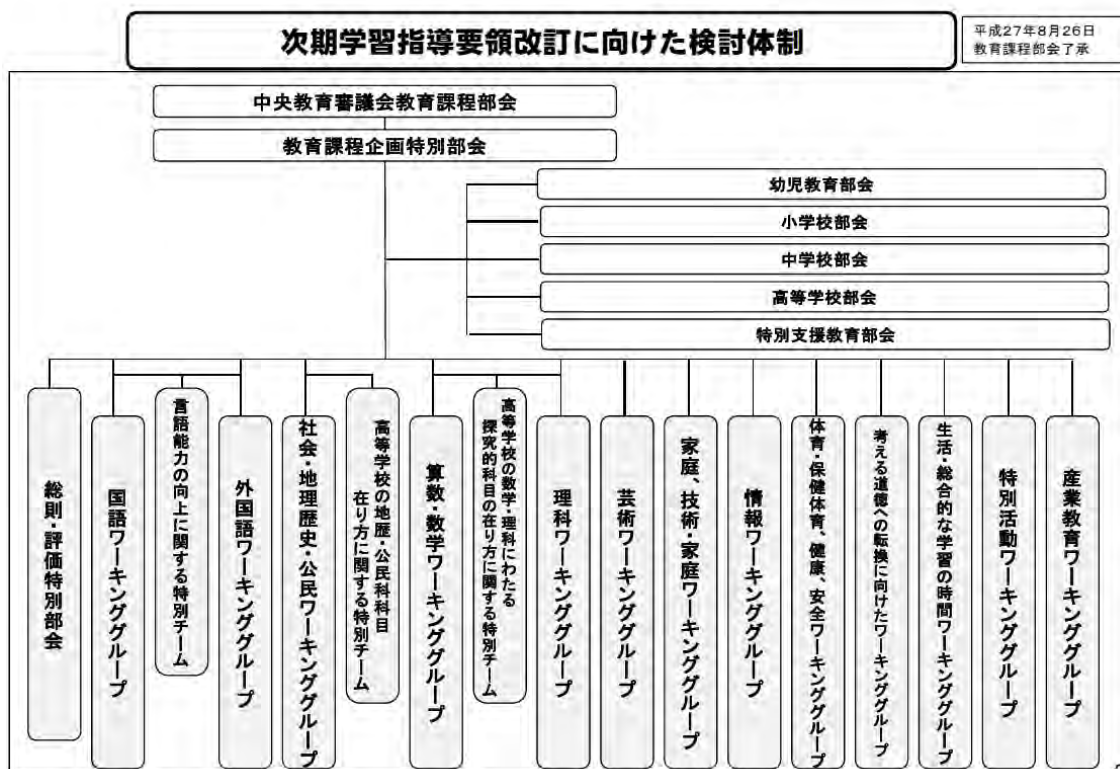


図1 次期学習指導要領改訂に向けた検討体制（文部科学省資料より）

ようなものであるべきかを示したものである。なおこの「論点整理」に基づいて同 8 月 26 日には中央教育審議会教育課程部会において学校段階等別・教科等別に専門的に議論するためワーキンググループ等の設置(図 1) が決定された。

今後の海洋教育の普及推進策を考えるうえで「論点整理」は非常に示唆に富むものであることから、ここで概要を紹介する。「論点整理」の中で、学習指導要領を検討する上での考え方について次のように述べられている。

「これまでの学習指導要領は、知識や技能の内容に沿って教科等ごとには体系化されているが、今後はさらに、教育課程全体で子供にどういった力を育むのかという観点から、教科等を越えた視点を持ちつつ、それぞれの教科等を学ぶことによってどういった力が身に付き、それが教育課程全体の中でどのような意義を持つのかを整理し、教育課程の全体構造を明らかにしていくことが重要となってくる。目指す方向は、教科等を学ぶ本質的な意義を大切にしつつ、教科等間の相互の関連を図ることによって、それぞれ単独では生み出し得ない教育効果を得ようとする教育課程である。そのために、教科等の意義を再確認しつつ、互いの関連が図られた、全体としてバランスのとれた教育課程の編成が課題とされるのである。」

「指導すべき個別の内容事項の検討に入る前に、まずは学習する子供の視点に立ち、教育課程全体や各教科等の学びを通じて「何ができるようになるのか」という観点から、育成すべき資質・能力を整理する必要がある。その上で、整理された資質・能力を育成するために「何を学ぶのか」という、必要な指導内容等を検討し、その内容を「どのように学ぶのか」という、子供たちの具体的な学びの姿を考えながら構成していく必要がある。」

このように次期学習指導要領の検討にあたっては、各教科の視点にとどまることない教科横断的な視座を持つこと、また育成すべき資質・能力をまず整理したうえで内容の検討を行っていくことを示した。

育成すべき資質・能力については、学校教育法第 30 条第 2 項が定める学校教育において重視すべき三要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」、いわゆる学力の 3 要素）をベースに、次のように整理している。

- (1) 何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）
- (2) 知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
- (3) どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）

これらを各教科等の文脈の中で身に付けていく力と、教科横断的に身に付けていく力とを相互に関連付けながら育成する必要性を示した。

すなわち、次期学習指導要領は、「何を知っているか」という知識の内容を体系的に示すだけでなく、「それを使ってどのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」ということに重点をおいたもので

あるべきとした。なお学習指導要領改訂の視点と、育成すべき資質・能力についての概念は、「論点整理」の補足資料に詳しい。(図 2,3)

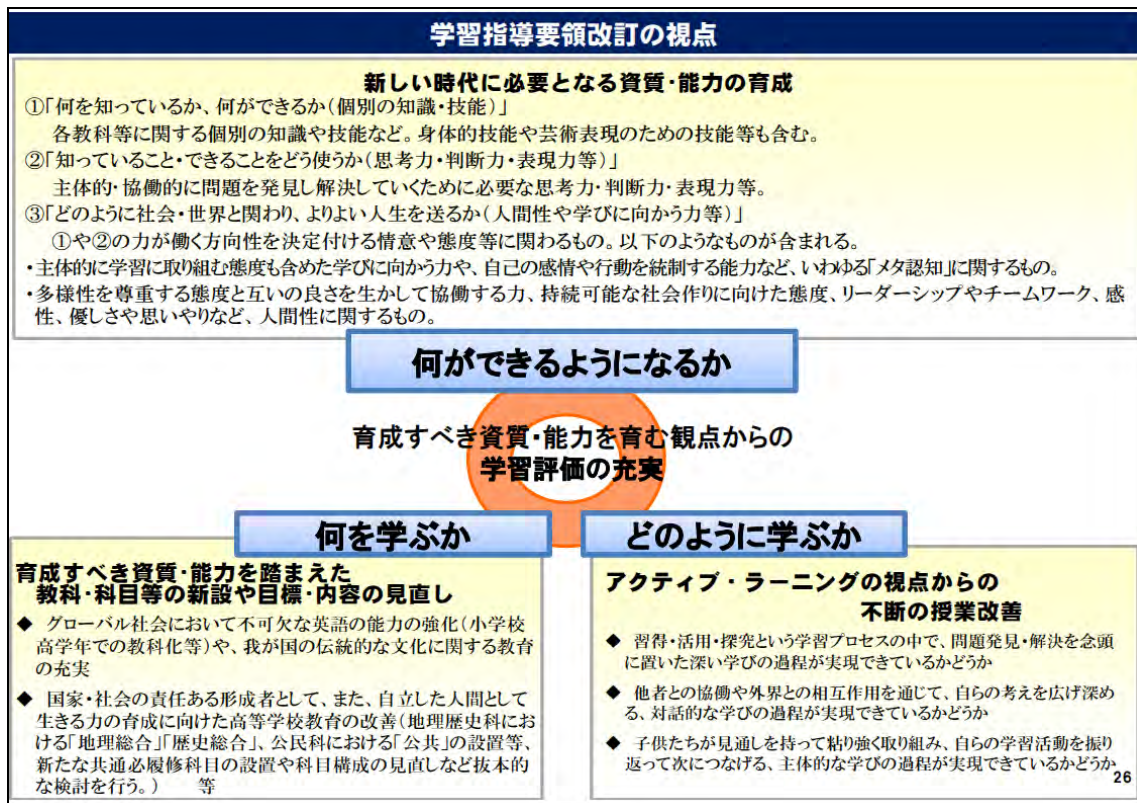


図 2 教育課程企画特別部会 論点整理 補足資料 26 ページより

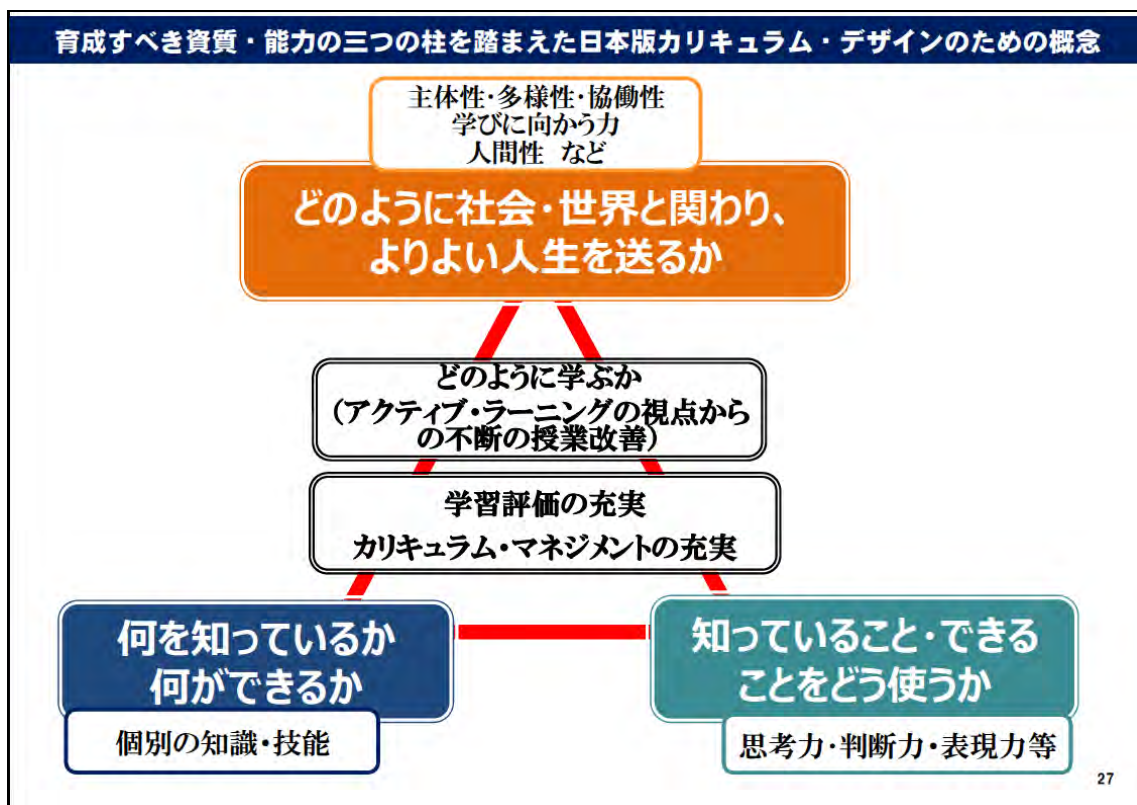


図 3 教育課程企画特別部会 論点整理 補足資料 27 ページより

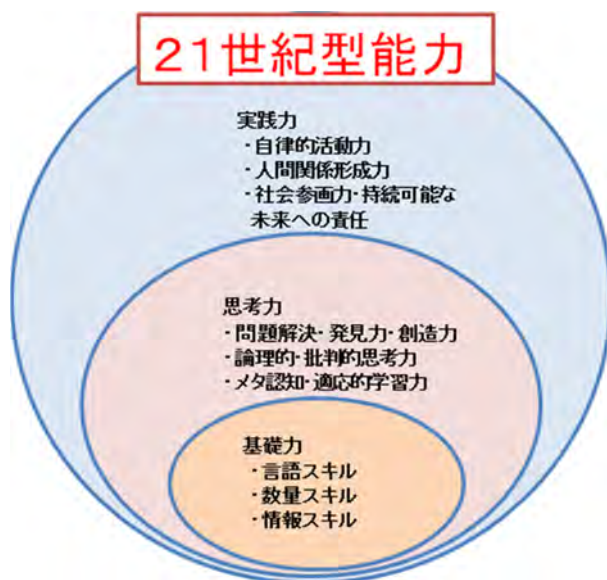


図4 21世紀型能力

平成24年度プロジェクト研究調査研究報告書 教育課程の編成に関する基礎的研究 報告書5
 社会の変化に対応する資質や能力を育成する教育課程編成の基本原則〔改訂版〕平成25年（2013）3月発行 より

なお、資質・能力については、2012年度に国立教育政策研究所が実施した「教育課程の編成に関する基礎的研究」報告書の中で、「21世紀型能力」（図4）の提案がなされている。「21世紀型能力」は、学力の三要素を「課題を解決するため」の資質・能力という視点で再構成し、さらに現行学習指導要領が目指す知・徳・体を総合的に関連づけて捉えた上で、これからの学校教育で身に付けさせたい資質・能力として示したもので、具体的には「思考力」を中核として、それを支える「基礎力」、その使い方を方向づける「実践力」という三層構造で構成されている。

その中で「21世紀型能力」については以下のように説明されている。

「変化の激しい時代には、読み書き計算といった基礎的なリテラシーを超えた教育目標が必要なことは明白である。社会の変化の特徴と諸外国、我が国の教育政策の動向を踏まえると、それは、未知の問題に答えが出せるような思考力と、教室外の現実の問題も他者との対話を通して解決できるような実践力だと言える。「生きる力」が、この21世紀を生き抜く力だと考えれば、こうした実践的な問題解決力・発見力こそが、その根幹を成すと考えられる。世界を見渡しても、こうした高次な力の育成に資する教育の最適解は得られていない。しかし、教育方法が未確立だからといって、目標を設定しないのであれば、その育成可能性の検証すら始められない。

そこで、本研究では、この21世紀を生き抜く力を「21世紀型能力」と名付け、その試案を提案する。21世紀型能力は、「21世紀を生き抜く力をもった市民」としての日本人に求められる能力であり、図9のように、「思考力」、「基礎力」、「実践力」から構成される。21世紀型能力は、「生きる力」としての知・徳・体を構成する様々な資質・能力から、とくに教科・領域横断的に学習することが求められる能力を汎用的能力として抽出し、それらを「基礎」「思考」「実践」の観点で再構成したものである。」

いずれにせよ、アクティブ・ラーニングを重視する流れは、こうした必要な資質・能力を総合的に育むための学びについて研究や実践が重ねられる中で生まれてきたものである。アクティブ・ラーニングについてはこれまでの小・中学校における実践による結果からその有効性が示されており、文部科学省は今後高等学校においてもこのような取り組みを求めたいとしている。

他方、指導法を一定の型にはめることについては懸念も指摘されている。アクティブ・ラーニングという特定の型にこだわるあまり、教育の質の改善が狭い意味での授業の方法や技術の改善に終始するのではないかといった懸念である。したがってアクティブ・ラーニングというものは教育手法の一つと捉えるべきで、この言葉にとらわれすぎることには注意が必要である。「論点整理」の中でも、次期改訂が学習・指導方法について目指すのは、特定の型を普及させることではなく、教員一人一人が、子供たちの発達の段階や発達の特性、子供の学習スタイルの多様性や教育的ニーズと教科等の学習内容、単元の構成や学習の場面等に応じた方法について研究を重ね、ふさわしい方法を選択しながら、工夫して実践できるようにすることが重要であるとしている。

(2) 学習指導要領改訂までの戦略に関する検討

これまで学習指導要領の次期改訂の方向性について述べてきたが、ここで海洋教育との関連について考えてみたい。

学校教育での海洋教育の普及を図るうえでは、各教科における海に関する内容の拡充を図ることが重要との指摘がこれまで多くなされ、またこれを裏付けるための研究や調査¹も行われてきた。しかし次期改訂に向けた議論の主題が、内容論ではなくむしろ資質・能力面に重きを置かれていることを踏まえれば、内容の表記拡充を訴えてもそれだけでは文部科学省や教育関係者を納得させることは困難と言わざるを得ない。加えて海洋以外の分野からも内容面での表記充実を訴える声は多い。そのような状況の中で、海洋教育の重要性を理解してもらうためには、これからの学校教育が目指そうとしている部分、つまり資質・能力を育成するうえで海洋教育が有効な手段であることを上手く示すことが重要であろう。そのためには海洋教育がどのような資質・能力を育成できるのか、という点を整理しておかなければならない。

これについては「21世紀の海洋教育に関するグランドデザイン」²（以下、グランドデザイン）の中で詳細な検討がなされている。グランドデザインでは、義務教育における海洋教育とは「海洋」という新教科を目的とするのではなく、既存の教科の内容を横断的に連携させて行う総合的教育体系であるべきとしている。したがってこの中で示されている海洋教育のカリキュラムは教科横断的な構造をとっているため、新しい学習指導要領の考え方に沿ったものとなっている。また、海洋教育が育成すべき能力については、小・中学校における海洋教育カリキュラムの目標を、「海の豊かな自然と親しむ活動や、身近な地域社会の中で海とのつながりを感じられるような体験活動、海について調べる活動、その保全活動などの体験を通して、海に対す

¹ 鈴木英之・中原裕幸・横内憲久 2003 我が国の海洋教育の現状と課題・義務教育における教科書分析を中心に - .SOF 海洋政策研究所

高桶克也・横内憲久・岡田智秀 2004 義務教育の教科書にみる海の教育に関する研究. 日本沿岸域学会論文集,

横内憲久 2004 義務教育の教科書からみるわが国の「海の教育」の現状と課題, 日本沿岸域学会誌

福島朋彦・酒井英次・太田絵里・山中亮一 2013 教科書のなかの海に関する記述についての予察的検討, 東京大学海洋アライアンス

² <https://www.spf.org/opri-j/projects/education/propulsion/progress/>

る豊かな感受性を培い海に対する関心を高めるとともに、海洋環境、水産資源、船舶運輸など海洋と人間の関係及び海を通した世界の人々との結びつきについて理解させ、持続可能な社会の形成者としての、資質、能力、態度を養う。」と定めており、知識を得ることだけが目標ではなく資質・能力・態度をも養うものであることが明言されている。また高等学校における海洋教育については、これらをより明確に示すため、育むべき能力と態度である「コンピテンシー」と、学習すべき知識や技能の範囲である「内容領域」を示した。コンピテンシーについては以下のとおりである。

1. 海に関して適切な情報を収集し、総合的に判断する能力（情報収集・判断）
2. 海の諸場面で円滑なコミュニケーションを行うために他者を理解し自己を表現する能力（対話）
3. 海の諸問題にかかわる関係者間の調整を試みながら問題を解決する能力（問題解決）
4. 海の恵みを持続的に利用できる能力（持続的利用）
5. 海に親しみ大切にできる態度（感動）
6. 海を介した時空間的なつながりを尊重する態度（関係）
7. 海の諸問題に関して自ら責任ある行動を起こす積極的な態度（主体）
8. 未来を見据え変わりゆく社会に対応できるよう海に関する知識や技能を継続的に学習する態度（継続）

「21世紀の海洋教育に関するグランドデザイン（高等学校編）」より



図5 高等学校における海洋教育のコンセプト：コンピテンシーと内容領域

以上から明らかのように、これまで検討されてきた海洋教育の概念は、教科横断的な構造であること、また育成する能力を明確にしたカリキュラムであるなど、文部科学省が目指す学習指導要領の考え方と合致したものである。したがって海洋教育の普及を進めるにあたっては、海洋教育の概念についてあらためて議論する必要はなく、グランドデザインをベースとして具体的なカリキュラムの開発、実践および研究を積みながら、子どもたちや地域の実情等を踏まえて各学校が設定する教育目標に貢献できるものであることを証明してゆくことである。こうした取り組みによって海洋教育は徐々に市民権を得ていくものと考えられるべきであろう。

2: 学習指導要領改訂に向けた各種条件整備

(1) 教育界が必要とする条件整備

海洋教育の実践校を増やすボトムアップの取り組みが重要であることは上で述べたとおりだが、一方で学校側にとってはさまざまな制約がある中で新しく海洋教育をはじめるとは容易ではない。やはり外部からの何らかの支援が必要であると考えられる。そこで現在すでに海洋教育を実施している小学校、中学校の関係者にヒアリングを実施し、仮に外部から支援を受けられるとしたらという前提で、どのような課題や提案があるのか把握することを試みた。それを整理して取りまとめたものが以下である。

<制度面および予算について>

- ・年間スケジュールおよび年間指導計画について

大まかな流れは、4月:入学式・新年度、5～6月:家庭訪問、6～8月:体験学習、プール、夏休み、9～10月:運動会、11月:次年度計画検討開始、12～1月:次年度年間指導計画・人事異動の決定。

- ・予算状況と物品の購入管理について

学校の予算配分はすべて使い道が決められており、自由に使えるのはせいぜい5万円とPTA会費くらい。予算規模はとて小小さく、1万円以上はすべて備品になる。市の予算であれば市の規定等に縛られるが、助成金は市の予算ではないので学校としては比較的自由に使えるありがたい。

市からの予算については、消耗品、教材、備品など、使い道が細かく決められており、自由に使えるお金は少ない。また特例校になっても予算が増える訳でもないので新しいことをやるのはなかなか厳しい。

市の予算の場合は、1万円を超えるとすべて備品になる。場合によっては相見積もり等を行うが明確な決まりはない。ただパイオニアの場合は市の予算ではないので、市の規定には縛られない。教頭の口座に入金し、出し入れは教頭が行う。

<海洋教育に関する認識>

- ・地域の理解はあるが、「海洋教育」として特に明確なビジョンや求める人物像などはまだない。ただ海に近いので、当然海を題材にした学習は当然行っている。PTAに対してはまだ知らせていないのでこれから。
- ・周囲を海に囲まれており海洋教育は重要な取り組みであるとの認識はあるが、費用面や時間的な問題で実行できていない。
- ・海洋教育を行う上で、やはり海に行きたいと考える学校は多いようであるが、バス代等の費用の捻出が難しいという問題がある。
- ・海洋教育について活発に行われない理由の一つは費用面であり、その問題についてクリアできるのであれば、海で魚を釣ってから捌き、料理をするなど体験型の海洋教育を行ってみたい。また、山の学習と絡めて、山から海までボート下りをするのもおもしろい。

＜外部への期待＞

- ・他校での具体的な事例の共有。また地元の機関には、地域での連携（学校・社会教育施設・ボランティア・市教委など）を促進するような活動を望む。学校は閉じた組織なので、積極的に外と連携するのが簡単ではない。その部分を埋めて欲しい。
- ・学校は、授業は実践するが、シンポジウム、研究発表会開催や、報告書・レポートの作成などには慣れていないため、地方大学がサポートできる。研究者としても、実績になるし学会や論文にも活かせるので協力したい人は多いだろう。
- ・そもそも海洋教育とは何なのかが難しい。「海」であればとっつきやすいが、「海洋教育」となると、よくわからない。時間がかかるし、1・2年で整備できる話ではないが、人事異動などもあるのでさらに難しい。そのあたりの話を大学など外部に相談したい。
- ・東大の海洋教育サミットは参考になる。ただし、海洋教育の概念的な話を聞くと分かったような気になるが、実際どう進めていくのか、ということになると難しい。教育委員会に海洋教育の指導主事がいる市があると聞いた。そうなれば相談できるからありがたい。

＜支援のニーズ＞

- ・写真撮影やデータ収集に有益なのでタブレットの需要が多い。特に小さな学校や内陸の学校は、なかなか海のことを調べることはできない。スマホ顕微鏡というものもあり、これからICTの活用は重要視されていくので、授業にも効果的に取り入れたいと考えている。
- ・早ければ5月から活動を開始するので、できるだけ早く着手できる支援が望ましい。
- ・教員の研修旅費等も支援対象となる助成支援の枠組みがあると非常にありがたい。教員の養成も重要な課題。

＜教育課程特例校の課題＞

- ・指導要領へ反映させるには特例校が増えることが重要ではあるが、特例校は教科を新設しなければならず現場の負担が大きい。全国への普及を目指すのであれば、基礎教科でどう教えるかが重要だが、これもなかなか難しい。特に理科に関しては、情報やものづくり、環境などいろいろな要素を入れやすいので、海を増やすのは簡単ではない。
- ・評価も難しい。新教科になるので通信簿に載るし、生徒に点数をつけなくてはならないが、どう評価していいかわからない。
- ・現場としては少し戸惑いがあった。海に近いので海についての学びはあるが、「海洋教育」としてのカリキュラムとしては考えていなかった。研修等を通じて教員の意識も徐々に上がってきたが、時間がかかる。

<その他の課題>

- ・海洋教育とは何か分からない。海の学習は伝統としてやっているが、それを「海洋教育」という枠で捉えたり、カリキュラムにしようとするのは簡単ではない。
- ・海洋教育の目的、何のためにするかが分からず、具体的な取り組み方も分からない。また中心として進めていく人がいない。学校は少ない人数で色々な役割を振り分けていくが、そこに海洋教育という新しいことが増えると、では誰がやるか？ということになる。
- ・まず目指すべきは、既に全国で行われている授業の見える化ではないか。新しい取り組みを増やしていくのは簡単ではなく、その次の段階だろう。安全上の理由から、特に海での校外実習は抵抗感があり以前に経験のない場合始めにくい学校も多い。
- ・地方の課題としては少子化による統廃合が挙げられる。学校経営が大変ななかで新しいものを根付かせるのは難しい。

<現場からの提案>

- ・各教科書会社への働きかけも重要。教科書や資料集に書いてあれば先生も取り組みやすい。
- ・助成支援の枠組みができるとすれば、周知方法としては教育委員会を通すのが最適だと思う。市教委から下りてくれば必ず回覧のような形で目を通す。特に学校として購読している雑誌・新聞はなく、各教諭が個別に購読しているものについては承知していない。
- ・新教科は結局総合の時間を割いてやっているのだから、教科化しなくても総合の枠でやれば良いと思う。ただ、教科にならなければ、環境教育と同じでなかなか全国的には普及しないかもしれない。
- ・海洋教育で扱われる分野は広すぎるので、それぞれの学校が一つの主軸（何をテーマにするか）をまず決めるのが大事ではないか。また上からやれと言われればやるが、下手に押し付けると現場としては海洋教育に拒否反応が出てしまうのでは。「海洋教育」という言い方をしていないだけで、海に近いところは多かれ少なかれやっているのだから、無理にカリキュラム化しない道もあると思う。

ここからわかるのは、財政面、内容面、人材面のそれぞれで課題を抱えていることである。近年教員の勤務負担増が社会問題化し、また地方財政も厳しい折、海洋教育という新しい教育テーマを普及させることは現場の負担を増すことに繋がりがかねない。したがって海洋教育の実践を推進させるためには、これら3点を偏りなくサポートできる体制を整えることが重要であると考えられる。海を題材にした学びを展開している学校は全国にいくつも存在しており、こうした学校で頑張っている現場教員の取り組みを下支えし、ネットワーク化できる枠組みができるとすれば、学校にとって大きな励みとなるに違いない。同時に、全国の海洋教育の実践例の「見える化」が進むことは、これから海洋教育を始めようとしている教員のみならず、文部科学省をはじめとする教育関係者にとっても興味深いデータとなるはずである。以上から、学校を直接支援する枠組みの構築は海洋教育の普及を推進する上で不可欠の条件と考えられる。

(2) 海洋教育推進に向けた各種活動

当財団では海洋教育に関する政策的な研究とは別に、すでに海洋教育を実施している現場に対して可能な範囲で協力・支援を行っている。今年度は以下の2件について具体的な協力を行った。

1) 福島県いわき市への協力

2015年7月18日、福島県いわき市長、同市議会議員並びに教育委員会関係者と意見交換を行い海洋教育への取り組みについて意見交換を行った。同市は南北60キロにわたる海岸線を有しているが、東日本大震災の津波被害をきっかけに地域児童の海離れが進んでいる。また福島第1原発事故による汚染水問題で基幹産業の漁業が大打撃を受け、地域の海洋文化・産業の衰退に自治体関係者は危機感を募らせている。若い世代の海への関心喚起を促すため、地域振興策の一つに海洋教育を位置づけ、学校教育の中で海洋教育を積極的に取り組むことを目指しているが、海洋教育の教材や情報が少なく困っているとのことであった。

当財団としては同市の取り組みが海洋教育を自治体の地域振興策として位置づけている点に注目し、こうした取り組みに対し当財団が作成した各種教材（「21世紀の海洋教育に関するグランドデザイン」等）を、同市教育委員会を通じて各小中学校に寄贈し、教員や児童の参考教材として活用してもらうこととした。

2) 宮崎大学への協力

宮崎大学が2016年2月29日に開催した「第2回海洋教育宮崎大学プロジェクト報告会」に対して後援を行い、大学の教育学部を核とした地域の小中学校における海洋教育推進の取り組みへの協力を行った。同県串間市立都井中学校は海洋教育をテーマにした教育課程特例校となっているが、宮崎大学は同校の取り組みに対し支援を行っている。小中学校の現場では海洋教育を展開するうえで人的にも財政的にも制約が大きいが、こうした制約を取り除くためには地域の大学教育学部などが果たすべき役割は大きく、海洋教育普及推進の先進的事例として今後の展開が期待されることから、継続して協力を行っていくこととした。



写真1 第2回海洋教育宮崎大学プロジェクト報告会の様子

(3) 海洋教育拡充に向けた政策提言等

1) 教育現場への海洋教育実践支援策に関する検討

学校教育での海洋教育普及推進のためには、実践と教育研究の積み重ねといったボトムアップの取り組みを増やすことが重要であることは先述のとおりだが、一方で学校が海洋教育に取り組むうえでは人材・教材・財政などさまざまな面で制約があることも事実である。そこでこういった制約をできるだけ取り除き海洋教育をやりやすい環境を整えるため、実施のための費用を直接支援する制度の設置に向けて、日本財団ならびに東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センターと協力して検討を行ってきた。その結果、2016年度より「海洋教育パイオニアスクールプログラム」という名称で、全国の国・公・私立の小中学校、中学校、高

等学校、中等教育学校、特別支援学校等を対象とした助成金支援の制度を立ち上げることを決定した。同プログラムは単なる資金面の支援だけでなく、取り組みの成果（単元計画や授業計画など）を集積し共有することにより「海洋教育の見える化」を促進し、教育研究の推進と情報の共有に関して充実を図ろうというものである。さらには、東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センターとの協力のもと、各学校への教育面でのアドバイスや講師派遣など人材面からもサポートを行うことを検討中である。これら取り組みを通じて、海洋教育カリキュラムの開発と海洋教育の担い手の育成を行うことにより、学校での海洋教育の面的な広がりや質的な向上につながることを期待される。

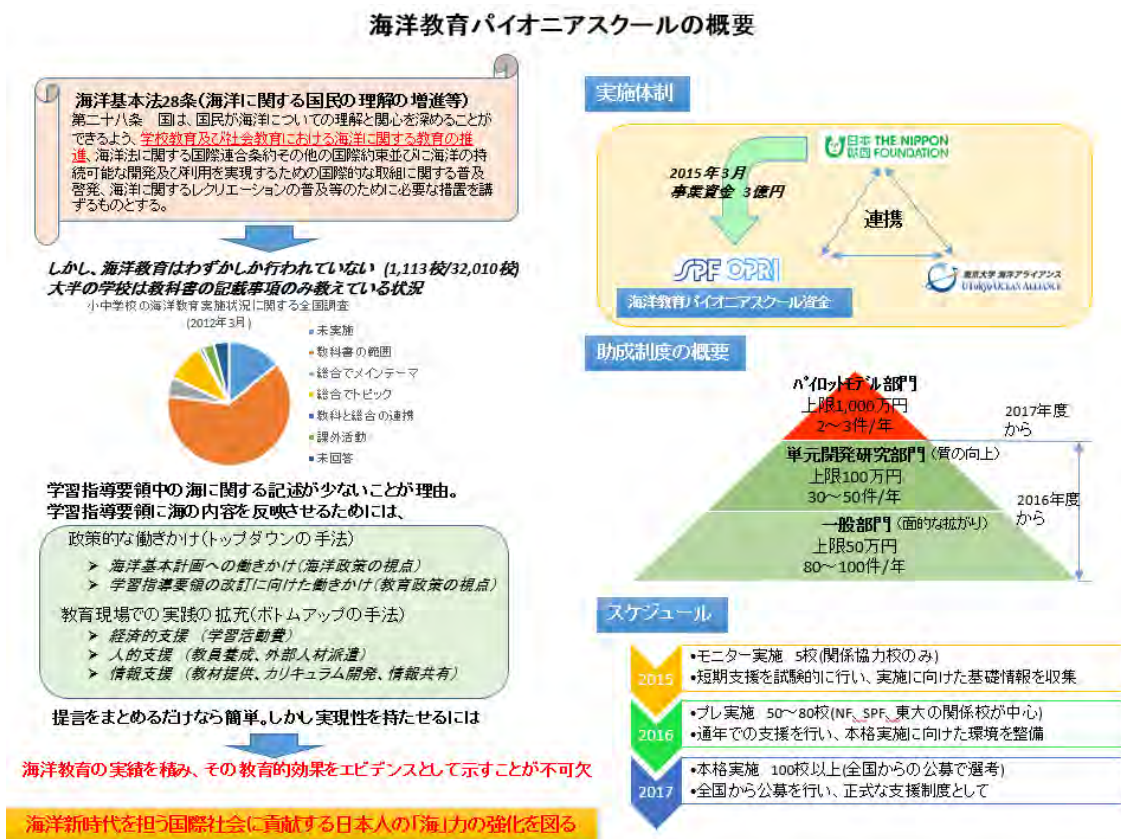


図5 海洋教育パイオニアスクールプログラムの概要

なお、2016年度の「海洋教育パイオニアスクールプログラム」については、主に教育内容の向上に主眼を置いた単元開発研究部門（1件の助成金上限額100万円以内）と、海洋教育の実践の拡大を目的とした一般部門（1件の助成金上限額50万円以内）の2部門構成とし、それぞれ実施件数の目標を単元開発研究部門は30~50件程度、一般部門は80~100件程度に設定した。また具体的な募集要項や専用ウェブサイトについても検討を行った（参考資料参照）。

このほかウェブサイトのコンテンツとして無料ダウンロードが可能な教材集についても検討を行った。各教材については図6に示すようなマップを作成し、各教科での学習場面に応じた簡単な学習素材や参考資料を今後充実させてゆくこととした。今年度は一つの例として海辺での安全な活動に資するための資料として「海辺の安全ハンドブック」を作成した（参考資料参照）。

教科	学年	単元等	学習テーマ	学内		フィールド		校外施設（博物館・企業等）	
				学習場面	教材	学習場面	教材	学習場面	教材
図工 生活 体育	1・2年生	(1) ア 身近な自然物の形や色などを基に思い付いてつくる	漂流物の種類や形の特徴などについて考える	どのようなのかが海岸に漂着しているか知り楽しみながらつくる	貝殻・漂流物セット	ビーチコーミング	漂着物ビンゴカード		
	2年生	(2) 身近な自然の観察	海のいろいろな生きものに親しむ	実際に海に行く前の事前学習として、海の危険について学ぶ	海辺の危険生物				
	5年生	(2) けがの防止		野外活動や臨海学校など海辺の危険対処法を学ぶ	ファーストエイドの方法、簡易救命の方法などノウハウ集				
社会	3・4年生	(2) 生産や販売	普段食べている魚はどのようにやって販売されているか調べる					スーパーで魚がどのように販売されているか調べる	魚の旬のカレンダー切り身の正体
	3年生	B 生命地球 (2) 身近な自然の観察	海にすむいろいろな生き物やその環境を調べる						観察ワークシート（ヒレや模様など一部分が書かれていない絵に書き込む）
	3・4年生	(5) 地域の人々の生活について、見学、調査したり年表にまとめたりして調べ考える	身近な海・地形の歴史や伝統について調べる					観察ワークシート（日時・色・大きさ・形・すんでいた場所の特徴・スケッチ）	観察ワークシート（ヒレや模様など一部分が書かれていない絵に書き込む）
理科	6年生	B 生命地球 (2) 生物と環境	海と川や山との関係、水の循環などについて学ぶ					近くの山・川・海を訪れて水の流れを調べる	公民館・資料館等で地元の特徴や歴史を調べる
	4年生	(3) ア 廃棄物の処理	海岸の漂着物から生活が自然に与える影響について知る	漂着物について学ぶ	漂着物の例と解説 国境を越える漂着物	ビーチコーミング	漂着物ビンゴカード		
	全学年	自然や崇高なものとかかわりに関すること						磯観察	生物多様性の重要性をわかりやすく解説した図
社会	5年生	(1) ア 世界の主な大陸と海洋、主な国の名称と位置、我が国の位置と領土	海洋法の基礎を学ぶ	領海・大陸棚・海里等の基礎や日本の領海・EEZ等について学ぶ	日本近海の図				
	5年生	(2) 農業・水産業 (3) 工業	海運が貿易や運輸にとって重要なことを学ぶ	身の回りの物が産地や工場から手元に届くまでの行程を調べる	海から食卓まで				
	6年生	(5) 環境	様々なエネルギーについて学ぶ	海でのエネルギー開発について調べる	海で開発されているエネルギーの解説				

図6 海洋教育教材マッピング

2) 社会教育における海洋教育に関する研究

社会教育は学校教育と並んで海洋教育の推進にとって重要であるが、社会教育はあくまで人々の自主的な学びをサポートするものであるため、人々が学ぶべき知識や技能を体系立てることにはあまり意味がなく、人々の海を学びたいという意欲をエンカレッジしていくような取り組みが重要である。同時に、海を学びたいと思った際にサポートできるような仕組みとして、学習事例や活動団体のデータベース化も重要である(平成26年度 我が国の学校教育における海洋教育拡充に向けた取り組み(日本財団海洋教育促進プログラム) 報告書 参照)。これらに鑑み、web サイト等により生涯学習のデータベースをどう提供するかを考えると、以下の3つのポイントが考えられる。

(1) どのような活動を生涯学習とするか

一概に生涯学習と言っても、その活動や内容は多岐に渡る。知識を得るためのセミナーや資格取得のための講座は生涯学習であると比較的判断しやすいが、ビーチクリーンアップやビーチコーミング、さらにはサーフィンやカヤックなどのスポーツは生涯学習に該当するかどうかは判断がとても難しい。1992(平成4)年の生涯学習審議会答申においては次のように述べられている。

「今後の社会の動向に対応した生涯学習の振興方策について(答申)」

生涯学習審議会(平成四年七月二九日)

第一部 生涯学習についての基本的な考え方

一 これまでの経緯

(四) 平成二年一月、中教審は「生涯学習の基盤整備について」答申を行っているが、ここでは、前記のような考え方を踏まえつつ、今後生涯学習を推進するに当たっては、特に次の三つの点に留意する必要があるとしている。

1. 生涯学習は、生活の向上、職業上の能力の向上や、自己の充実を目指し、各人が自発的意思に基づいて行うことを基本とするものであること。
2. 生涯学習は、必要に応じ、可能な限り自己に適した手段及び方法を自ら選びながら、生涯を通じて行うものであること。
3. 生涯学習は、学校や社会の中で意図的・組織的な学習活動として行われるだけでなく、人々のスポーツ活動、文化活動、趣味、レクリエーション活動、ボランティア活動などの中でも行われるものであること。

これによると、ビーチクリーンアップやビーチコーミング、さらにはサーフィンやカヤックなどのスポーツはもちろん、釣りや海水浴まで、例え意図的でなくてもそこに何かしらの学びがあるのならば、それは生涯学習と考えることができると考えて良いだろう。

(2) 学習意欲エンカレッジ型の情報提供

海について学びたいと思っていない人でも、読んでいるうちに学びたくなるような、あるいは前項に記したように学ぶ意欲を必要としなくても生涯学習と呼ぶのであれば実際にやってみたくなるようなコンテンツの提供が重要である。休日にどこかにでかけようと思った時にふと目にするような雑誌や、息抜きに読めるようなメールマガジン等、面白く読めるものを目指すべきだと言える。

例えば、通信教育事業を展開する株式会社ユーキャンが運営する web サイト「マナトピ」<http://manatopi.u-can.co.jp/> は、通信教育の講座を一覧で示したり、検索したりするような形式のサイトではない。「家事も育児もシンプルに快適リセット！ 整理収納の魅力とは」「スイーツコンシェルジュ厳選！ この春注目のスイーツとは？」というように、一見通信教育とは関係ないように見えるが、興味を持って読み進めると関連した資格や通信教育のページにリンクされているという記事が、特に分類されるわけでもなく並んでいる。また、「週末に見るならこれ！ やる気スイッチを ON してくれる映画 7 選」「春休みの旅行計画は立てた？ カップルにおすすめの国内旅行先 3 選」のように、ページ内にどこにも資格や通信教育のページにリンクがない記事もある。とにかくまずはサイトに訪れてもらい記事を読んでいる間に少しでも学びたいと思ってもらえれば良いというスタイルで運営されている。Walkerplus (<http://www.walkerplus.com/>) やるるぶ (<http://rurubu.travel/>) といった旅情報サイトも、イベントや宿のデータベースとともに、旅行をすることでどんな楽しみ方ができるといったニュースやトピックスから需要を喚起するような構成となっている。

(3) 分類ではなくタグ付けによる整理

社会教育においては、人々が学ぶべき知識や技能を体系立てることはあまり意味がないため、カテゴリーに分けるという手法よりも、個々のデータに生涯学習という学習者の視点から見た海洋教育に関連するタグ（キーワード）を付与し、そのタグから検索するという手法の方が適していると考える。またそのタグも整合性をもって体系立てる必要はなく、マインドマップのように自由な広がりを持つ方がよいだろう。

例えば、21 世紀の海洋教育に関するグランドデザインにおいて、学校教育における海洋教育を体系立てて考えるために採用した 4 つの柱（海に親しむ、海を知る、海を守る、海を利用する）と、12 分野（「生活・健康・安全」「観光・レジャー・スポーツ」「文化・芸術」「歴史・民俗」「地球・海洋」「物質」「生命」「環境・循環」「資源・エネルギー」「経済・産業」「管理」「国際」）を用いて、生涯学習に関する活動団体を分類しようとする、例えば、水族館は 4 つの柱全てに分類されてしまい、12 分野においてもほとんどの分野に該当してしまう（図 7 参照）。

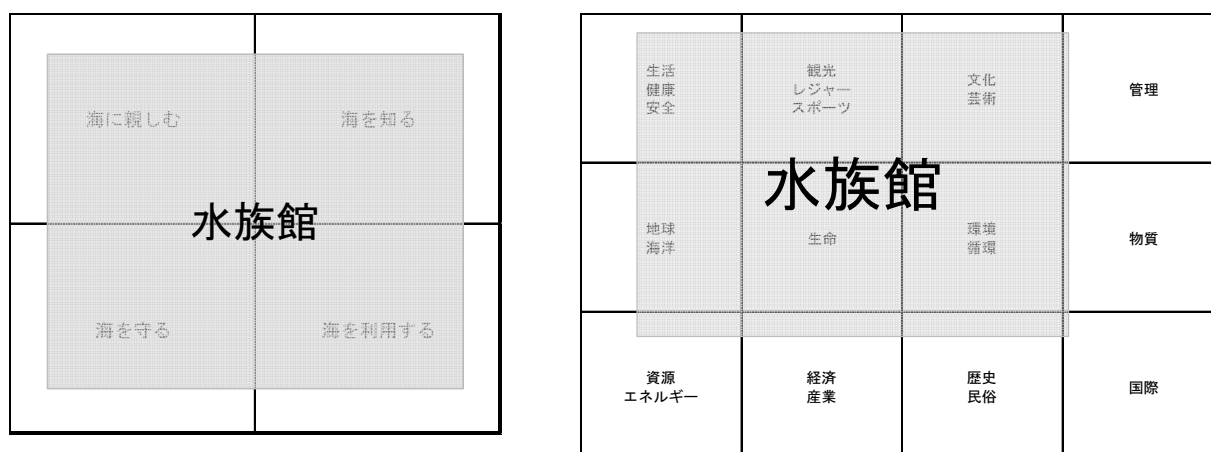


図 7 水族館の分類試行 1

	海に親しむ	海を知る	海を守る	海を利用する	健康・安全・生活	観光・レジャー・スポーツ	文化・芸術	歴史・民族	地球・海洋	物質	生命	環境・循環	資源・エネルギー	経済・産業	管理	国際	生物観察	講演会	指導者養成	資格取得	海洋スポーツ	サーフィン	キャンプ	地引き網	漁業体験	ビーチクリーンアップ	クラフト	ビーチコーミング	...
水族館	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○		○			○	○											
博物館	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					○	○											
野外活動団体	○	○	○		○	○					○						○		○		○						○	○	
漁業組合	○	○	○	○	○		○						○	○			○							○	○				
ボランティア団体	○		○		○									○													○		
サーフショップ	○			○	○	○	○							○								○	○						
⋮																													

図 8 水族館の分類試行 2

では、縦軸に活動団体、横軸に該当しそうな分類を並べてみると図 8 のようになる。横軸が分類の数だけ無限に増えてしまい、活動と内容等が混在するためその整合性もうまく取ることができない。また、結局多くの分類に該当することになってしまい、あまり有用な表にすることができない。

そこで、「分類」を諦めて、各活動団体に、生涯学習者から見てどのような活動ができるか、何について学ぶことができるかというようなタグを付けて行くと良いのではと考えた(図 9 参照)。情報発信サイトではこれらのタグを元に、前項のような記事からリンクを貼るという手法が考えられる。また、もしこのタグをうまく分類することができれば、図 10 のようなサイトも作成可能だろう。

活動団体	タグ
水族館	#生物観察 #講演会 #ガイドツアー #博物館 #展示見学 #生物
博物館	#博物館 #展示見学 #講演会 #民俗資料
野外活動団体	#生物観察 #キャンプ #海洋スポーツ #ビーチコーミング #クラフト #指導者養成
漁業組合	#漁業体験 #地引き網体験 #市場見学
ボランティア団体	#ビーチクリーンアップ #ビーチコーミング
サーフショップ	#海洋スポーツ #サーフィン
⋮	

図 9 社会教育施設のタグ付け

飼育霊長類標本データベース
CaPriCo: Database of Captive Primate Collection

日本モンキーセンターは、70種、900頭以上の生きた霊長類を有する世界最大級のサル類動物園を運営してきました。また、この動物園でこれまでに死亡したほとんどの個体を解剖し、6,300に及び個体から、3,500点以上の骨格標本、6,000点以上の脳や内臓、全身の液浸標本、剥製や毛皮、寄生虫標本など、多数の標本を作製してきました。

このたび、モンキーセンターでは、平成24年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費 データベース、課題番号248042）を受けて、これらの標本に関する「飼育霊長類標本データベース（CaPriCo）」を作成することになりました。この計画の初年度を終えたところで、これまでに整理された骨格標本の一部のデータを公開する運びとなりました。将来的にはさらに計画継続のための資金を得て、骨格標本のほか、液浸標本並びに寄生虫標本の全データを公開していく予定です。

■ 学名： ※複数選択可・or検索

- All species(6383)
- Cheirogaleidae *Microcebus murinus*(8)
- Lemuridae *Eulemur fulvus*(2)
- Lemuridae *Eulemur macaco*(15)
- Lemuridae *Eulemur mongoz*(7)
- Lemuridae *Lemur catta*(55)
- Lemuridae *Varecia variegata*(42)
- Galagidae *Galago senegalensis*(59)
- Galagidae *Galago demidovii*(2)
- Galagidae *Otolemur crassicaudatus*(47)
- Galagidae *Galagidae spp.*(1)
- Loridae *Loris tardigradus*(12)
- Loridae *Nycticebus coucang*(58)
- Loridae *Nycticebus pygmaeus*(28)
- Loridae *Perodicticus potto*(10)
- Tarsiidae *Tarsius syrichta*(9)
- Cebidae *Callimico goeldii*(37)
- Cebidae *Callithrix argentata*(39)
- Cebidae *Callithrix geoffroyi*(44)
- Cebidae *Callithrix humeralifer*(30)

■ 骨格標本： ※複数選択可・and検索

- 頭蓋骨(1564)
- 上腕骨(1523)
- 尺骨(1522)
- 大腿骨(1515)
- 腓骨(1515)
- 体幹(1566)
- 足(1500)
- 下顎骨(1935)
- 橈骨(1520)
- 肩甲骨(1542)
- 脛骨(1517)
- 寛骨(1543)
- 手(1502)

■ 性別：

- オス(2715)
- 不明(289)
- メス(3300)

■ 年齢：

- 胎児(0)
- 子供(801)
- 不明(8)
- 乳児(127)
- 大人(719)

※()内は当該検索条件を追加して検索した際の標本件数です。

本データベース、並びに標本に関するお問い合わせはキョウテック・新巻様までお願いいたします(E-mail: shintaku.jmc[at]gmail.com)。
© 2013 Japan Monkey Centre. All rights reserved.
動物取扱業：公益財団法人日本モンキーセンター 愛知県犬山市犬山字宮林26番地
業種：展示 動物第510号 登録：平成19年5月31日 有効：平成29年5月30日 取扱責任者：伊谷優一

図 10 「飼育霊長類標本データベース」日本モンキーセンター (<http://www.j-monkey.jp/caprico/>)

実際に「海辺の活動をサポートする団体・海を学べる博物館&資料館」（「海遊び入門」小学館 BE-PAL ムック）を元に、生涯学習に関連する活動団体にタグ付けを行ったものが次の表（図 11）である。

図 11 生涯学習に関連する団体のタグ付け

名称	URL	形態	テーマ	アクティビティ
IHIものづくり館 (アイミュージム)	www.ihico.jp/i-muse	#博物館	#造船	
有限会社アウトドアシステム湘南自然学校	www.shonan-ns.com	#有限会社		#キャンプ
あおり北のまほろば歴史館 (旧 北方歴史資料館)	www.kitanomahoroba.jp	#博物館		#講座
NPO法人あきた海辺の自然学校	akitambe.com	#NPO	#自然体験	#カヤック #スノーケリング #教護 #キャンプ #エコツアー #着衣泳 #ゲストハウス
アクアマリンふくしま	www.marine.fks.ed.jp	#博物館 #水族館	#海洋生物	#ボランティア #バックヤードツアー
アクアワールド茨城県大洗水族館	www.aquaworld-oarai.com	#博物館 #水族館	#海洋生物	#講座 #ガイド #バックヤードツアー
赤穂市立海洋科学館	www.ako-kaiyo.jp	#博物館	#塩 #赤穂	#塩作り
旭山動物園	www.city.asahikawa.hokkaido.jp/asahiyamazoo	#博物館 #動物園	#海洋生物	
厚岸町海事記念館	www.town.akkeshi.hokkaido.jp/kaiji	#博物館	#漁業 #捕鯨	
網走市立郷土博物館	www.city.abashiri.hokkaido.jp/270kyoiku/050kyoudo/	#博物館	#オホーツク海	
いおワールド鹿兒島水族館	www.ioworld.jp	#博物館 #水族館	#海洋生物	#ガイド #バックヤードツアー #飼育体験 #講座
いしかり砂丘の風資料館	www.city.ishikari.hokkaido.jp/museum	#博物館	#石狩川河口	
石川県海洋漁業科学館 (うみとさかなの科学館)	www.pref.ishikawa.lg.jp/suisan/center/kagakukan/Toppage.html	#博物館	#水産	#工作
石川県銭屋五兵衛記念館・銭五の館	www.zenigo.jp	#博物館	#北前船 #銭屋五兵衛	#工作 #講座
石川島資料館	www.ihico.jp/shiryokan	#博物館	#造船 #石川島 #佃島	
伊豆べたなぎ	www.betanagi.jp	#ショップ	#ダイビング	#ダイビング #ホエールウォッチング
NPO法人伊勢湾フォーラム	www.isewanforum.org	#NPO	#伊勢湾 #まちづくり #マリンスポーツ #人材育成	#水質調査 #ヨット
岩手県立水産科学館	www.city.miyako.iwate.jp/suisan/suisan_kagakukan.html	#博物館	#水産	#新巻鮭作り #鮭革細工 #魚拓
因島水軍城	www.city.onomichi.hiroshima.jp/www/section/detail.jsp?id=1402	#博物館	#村上水軍	
うるま市立海の文化資料館	umibun.ti-da.net	#博物館	#うるま	
海とくらしの史料館	www.localplace.jp/t000233426	#博物館	#境港	
海と渚の博物館 (うみっこらんど七塚)	www.city.kahoku.ishikawa.jp/umikko/	#博物館	#能登半島	
海と港の資料室	www.city.nagoya.jp/minato/page/0000047364.html	#博物館	#港 #防災	
海の仕事.COM	www.uminoshigoto.com	#ポータルサイト	#海の仕事	
NPO法人海の自然史研究所	www.marinelearning.org	#NPO	#環境教育	#指導者養成 #教育旅行 #キャンプ
海の博物館	www.umihaku.com	#博物館	#海民	#磯観察 #ビーチコーミング #クラフト
海の博物館 山形県酒田海洋センター	www.city.sakata.lg.jp/ou/shoko/kankoshinko/kankokoryu/7104.html	#博物館	#酒田港 #海運 #船 #水産 #歴史 #千石船	
NPO法人海辺つくり研究会	homepage2.nifty.com/umibeken	#NPO	#アマモ	#自然体験 #指導者養成
浦戸湾みらい会議	knpo.jp/mirikaigi	#NPO	#浦戸湾	#巡検
浦安市郷土博物館	www.city.urayasu.lg.jp/kanko/kyodo	#博物館		#ボランティア
NPO法人ama水辺の自然文化研究所	www.pocket.co.jp/ama	#NPO	#自然体験	#指導者養成
NPO法人エコ・リンク・アソシエーション	eco-link.jp	#NPO	#エコツーリズム	#民泊 #教育旅行
越前がにミュージアム	www.echizen-kk.jp/kani.html	#博物館	#越前がに #漁村 #かに漁	
越前松島水族館	www.echizen-aquarium.com	#水族館 #博物館	#海洋生物	#ガイドツアー #キャンプ
愛媛県歴史文化博物館	www.i-rekihaku.jp	#博物館		#講座
えりも町郷土資料館「ほろいずみ」・水産の館	www.town.erimo.lg.jp/horoizumi	#博物館		
エル・マール まいづる	www.kepco.co.jp/corporate/profile/community/pr/elmar	#博物館	#船 #エネルギー	
大洗海洋博物館	oarai-isosakijinja.or.jp/museum.html	#博物館	#水産	
大分県マリナルチャーターセンター海洋科学館	www.oita-mcc.jp	#博物館	#漁業	#カヌー #カッター #講座
大分マリナーバレス水族館「うみたまご」	www.umitamago.jp	#博物館 #水族館	#海洋生物	#バックヤードツアー
NPO法人オーシャンファミリー海洋自然体験センター	oceanfamily.jp	#NPO	#自然体験	#サマースクール #指導者養成 #ビーチクリーンアップ #カヤック
NPO法人OWS	www.ows-npo.org	#NPO	#自然体験	#セミナー #自然教室 #ビーチクリーンアップ
大三島海事博物館	www2.kokugakuin.ac.jp/museum/jinja/37/37_ooyama1.html	#博物館	#葉山丸 #瀬戸内海 #三島水軍	
大森青べかカヌークラブ	home.u00.itscom.net/aobeka		#東京湾	#カヤック
大森 海苔のふるさと館	norinoyakata.web.fc2.com	#博物館	#海苔	#海苔つけ #工作 #生物観察
男鹿水族館 GAO	www.gao-aqua.jp	#博物館 #水族館	#海洋生物	#解説
沖縄 海洋文化と自然環境アクションネットワーク	www.okinawaocan.org	#NPO	#海洋文化	#環境学習 #ビーチクリーンアップ
沖縄県サンゴ礁保全推進協議会	coralreefconservation.web.fc2.com	#NPO	#サンゴ礁	#絵画コンテスト #写真コンテスト
おたる水族館	www.otaru-aq.jp	#博物館 #水族館	#海洋生物	
オホーツク流水館	www.ryuhokan.com	#博物館	#流水	

名称	URL	形態	テーマ	アクティビティ
オホーツク流水科学センター	giza-ryuhyo.com	#博物館	#流水	
海運資料館	www.city.sado.niigata.jp/sadobunka/denbun/museum/ogi/index_ogisiryo.htm	#博物館	#小木港 #船庫街 #船絵馬	
海王丸パーク	www.kaiwomaru.jp	#博物館	#海王丸	#ボランティア #カッター #セイリング
海峡ドラマシップ	kanmon-mojiko.com	#博物館	#関門海峡	
道の駅 開国下田みなと(ベイ・ステージ下田)ハーバーミュージアム	www.kaikokushimodaminato.co.jp	#博物館	#歴史	#カジキ釣り
海上自衛隊呉史料館(てつくじら館)	www.jmsdf-kure-museum.go.jp	#博物館	#海上自衛隊	
海上自衛隊佐世保史料館	www.mod.go.jp/msdf/sasebo/5_museum/1_guide	#博物館	#海上自衛隊	
海上保安資料館 横浜館	www.kaiho.mlit.go.jp/03kanku/kouhou/jcgm_yokohama	#博物館	#海上保安庁	
海上保安資料館	www.jcga.ac.jp/shiryokan/shiryokan.html	#博物館	#海上保安庁 #海洋情報	
カイトクラブ沖縄	www.kiteclub.biz	#ショップ	#カイトボード	#カイトボード
開陽丸記念館(開陽丸青少年センター)	www.kaiyou-maru.com	#博物館	#開陽丸 #水中考古学	
加賀市北前船の里資料館	www.city.kaga.ishikawa.jp/kitamae	#博物館	#北前船	#講座
笠岡市立カブトガニ博物館	www.city.kasaoka.okayama.jp/site/kabutogani	#博物館	#カブトガニ	#講座
風の丘柏崎コレクションビレッジ・黒船館	www.colle-vill.kurofune	#博物館	#黒船 #開国	
勝浦海中公園ビジターセンター	www.katsura.org	#博物館	#勝浦 #海洋生物	
鎌倉アウトリガークラブ	kamakuraoutrigger.jimdo.com		#アウトリガーカヌー	#アウトリガーカヌー
海都市生命の海科学館	www.city.gamagori.lg.jp/site/kagakukan	#博物館	#海洋	#ガイド #講座
唐桑半島ビジターセンター・津波体験館	www.karakuwa.com/visitor	#博物館	#唐桑半島 #津波	
環境ボランティアサークル亀の子隊	www.kamenoko.org	#NPO	#環境保護	#ビークリナーンアップ #自然観察
観音崎自然博物館	kannonzaki-nature-museum.org	#博物館	#観音崎	#磯観察 #ボランティア #自然観察会
北茨城市漁業歴史資料館「よう・そろー」	www.yo-soro.org	#博物館	#大津御船祭り #東日本大震災 #漁業 #アソコウ	
北前船主の館・右近家	www.minamiechizen.com/tabid/196/Default.aspx	#博物館	#北前船	
北前船主屋敷 蔵六園	zorokuen.com	#博物館	#北前船	
記念艦「三笠」	www.kinenkan-mikasa.or.jp	#博物館	#三笠	#講座 #フォーラム
教育参考館	www.mod.go.jp/msdf/onemss/about/facility/index-sankou.html	#博物館	#海上自衛隊	
串本海中公園	www.kushimoto.co.jp	#博物館 #水族館	#海洋生物	#飼育体験 #磯観察 #ダイビング #スノーケリング #ホエールウォッチング
NPO法人くすの木自然館	www.kusunokishizenkan.com	#NPO	#環境学習 #体験学習 #自然体験	#自然環境調査 #エコツアー #指導者養成
呉市海事歴史科学館大和ミュージアム	www.yamato-museum.com	#博物館	#海事	#サイエンスショー
鯨資料館ミュージアム	www.town.shinkamigoto.nagasaki.jp/geihinkan/museum/	#博物館	#捕鯨	
慶良間海洋文化館		#博物館	#慶良間	
NPO法人玄海ライフセービングクラブ	www.genkai-lsc.info	#NPO	#ライフセービング	#ライフセービング #ビークリナーンアップ
神戸海洋博物館	www.kobe-maritime-museum.com	#博物館	#神戸港 #海事	
神戸大学海事博物館	www.museum.maritime.kobe-u.ac.jp	#博物館	#海事	
国営沖縄記念公園	oki-park.jp	#博物館 #水族館	#海洋民族 #海洋生物	#バックヤードツアー #クラフト
NPO法人国際自然大学校	www.nots.gr.jp	#NPO	#自然体験	#キャンプ
国立科学博物館	www.kahaku.go.jp	#博物館		#講座
等平海洋博物館(海の科学館)	www.kaiyohakubutukan.sakura.ne.jp	#博物館	#海事	
サーフショップオウダスタイルサーフィング	www.padobo.com	#ショップ	#サーフィン #パドルボード	#サーフィン #パドルボード
佐井村海峡ミュージアム	saikanku.sakura.ne.jp/history/museum.html	#博物館	#北前船 #海峡	
佐渡国小木民俗博物館(千石船「白山丸」展示館)	www.hakusanmaru.sakura.ne.jp	#博物館	#千石船 #白山丸	
一般社団法人JEAN	www.jean.jp	#NPO		#ビークリナーンアップ
株式会社自然教育研究センター	www.ces-net.jp	#株式会社	#インタープリテーション	#指導者養成
NPO法人自然体験活動推進協議会	www.cone.ne.jp	#NPO	#自然体験	#指導者養成
品川区立品川歴史館	www.city.shinagawa.tokyo.jp/jigyoku/06/history/hsindex.html	#博物館		#講座
標準サーモン科学館	www.shibetsu-salmon.org	#博物館 #水族館	#サケ	
島根県立宍道湖自然館ゴビウス	www.gobius.jp	#博物館 #水族館	#海洋生物	#ガイド #生物観察
清水港湾博物館(フェルケル博物館)	www.suzuyo.co.jp/suzuyo/verkehr	#博物館	#清水港	#工場見学 #講座 #工作
湘南アウトリガーカヌークラブ	www.shonanoutrigger.com		#アウトリガーカヌー	#アウトリガーカヌー
白瀬南極探検隊記念館	hyper.city.nikaho.akita.jp/shirase	#博物館	#南極	
白浜海洋美術館	homepage2.nifty.com/kaibi	#博物館	#海洋美術	#ボランティア

名称	URL	形態	テーマ	アクティビティ
市立玉野海洋博物館	www.city.tamano.okayama.jp/syoukoukankou/kaihak	#博物館 #水族館	#海洋生物	
新江ノ島水族館	www.enosui.com	#博物館 #水族館	#海洋生物	#ピーチクリーンアップ #ガイド
スーパーフライ	www.superfly.jp	#ショップ	#カイトボード	#カイトボード
スキムボード専門ショップスキムワン	www.skiml.com	#ショップ	#スキムボード	#スキムボード
青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸	amori-hakkoudamaru.com	#博物館	#青函連絡船	
NPO法人セイラビリティ江ノ島	sailability-enoshima.jp	#NPO		#ディンギー
NPO法人瀬戸内里海振興会	www.satoumi.org	#NPO	#瀬戸内海	#生物観察 #ピーチクリーンアップ #シンポジウム
瀬戸内海歴史民俗資料館	www.pref.kagawa.jp/setorekishi	#博物館	#瀬戸内海	#講座
太地町立くじらの博物館	www.kujirakan.jp	#博物館 #水族館	#海洋生物	
太地町歴史資料室				
高岡市伏木北前船資料館 (旧秋元家住宅)	www.city.takaoka.toyama.jp/bunkazai/kanko/bunka/shisetsu/kitamaesen.html	#博物館	#伏木 #北前船	
NPO法人たてやま・海辺の鑑定団	www.umikan.jp	#NPO	#館山	#スノーケリング #ピーチクリーニング #クラフト #ピーチクリーンアップ
茅ヶ崎アウトリガーカヌークラブ	www.outriggercanoe.cc		#アウトリガーカヌー	#アウトリガーカヌー
地図と測量の科学館	www.gsi.go.jp/MUSEUM	#博物館	#測量	
千葉県立中央博物館分館海の博物館	www.chiba-muse.or.jp/UMIHAKU	#博物館	#房総	#生物観察 #講座 #ガイドツアー
東京海洋大学海洋工学部附属 百周年記念資料館	www.e.kaiyodai.ac.jp/facilities/hyaku	#博物館	#商船教育史	
東京海洋大学附属図書館	lib.s.kaiyodai.ac.jp	#図書館		
東京海洋大学マリンサイエンスミュージアム(旧 海洋科学部附属水産資料館)	www.s.kaiyodai.ac.jp/museum/public.html	#博物館	#水産	
東京みなと館	www.tokyoport.or.jp/40minatoken0103.htm	#博物館	#東京港	
東京都立第五福竜丸展示館	d5f.org	#博物館	#第五福竜丸	#講座
東洋大学海洋科学博物館	www.umi.muse-tokai.jp	#博物館 #水族館	#海洋生物	#講座
鳥羽水族館	www.aquarium.co.jp	#博物館 #水族館	#海洋生物	#ガイド
長崎市出島史料館				
長門市くじら資料館	member.hot-cha.tv/~htc09819/siryoukan.html	#博物館	#捕鯨	
長門の造船歴史館	www.city.kure.lg.jp/soshiki/67/m000161.html	#博物館	#造船 #海運	
渚の博物館(館山市立博物館分館)	www.city.tateyama.chiba.jp/hakubutukan/page020599.html	#博物館	#館山	
名古屋海洋博物館	www.nagoyaqua.jp	#博物館 #水族館	#海洋生物	#講座 #生物観察 #ウミガメ放流
新潟市水族館マリニア日本海	www.marinepia.or.jp	#博物館 #水族館	#海洋生物	#解説
公益社団法人日本環境教育フォーラム	www.jeef.or.jp	#NPO	#環境教育	#自然体験 #指導者養成
日本自然保護協会	www.nacsj.or.jp	#財団法人	#自然保護	#生物多様性 #自然調査
日本セーフティカヌーイング協会	www.jsca.net		#カヌー	#カヤック #教護 #指導者養成
日本郵船歴史博物館・日本郵船氷川丸	www.nyk.com/rekishu	#博物館	#郵船	#ガイド #講座
NPO法人日本ライフセービング協会	jl.a.gr.jp	#NPO	#ライフセービング	#ライフセービング #教護
沼津市戸田造船郷土資料博物館	www.city.numazu.shizuoka.jp/kurashi/shisetsu/zo	#博物館	#造船 #深海生物	
のと海洋ふれあいセンター	notomarine.jp	#博物館		#磯観察 #スノーケリング #土鍋製塩 #海藻押し葉
函館市青函連絡船記念館摩周丸	www.mashumaru.com	#博物館	#青函連絡船	
函館市灯台資料館(ピカリン館)	hakodate-cape.com/index_pikarin.html	#博物館	#灯台	
函館市北洋資料館	www.zaidan-hakodate.com/gjh/hokuyo	#博物館	#北洋漁業	
八戸市水産科学館(マリエント)	www.marient.org	#博物館	#水産	
NPOのくばらぎ海と自然の教室	www.umno-npo.com	#NPO	#自然体験	#スノーケリング #生物観察
葉山しおさい博物館	www.town.hayama.lg.jp/tanoshimu/shisetsu/siosai	#博物館	#葉山 #相模湾	
Be-Nature School	www.be-nature.jp	#有限会社		#自然体験 #指導者養成 #ファシリテーション #教護
漂着物学会	drift-japan.net	#学会	#漂着物	#ピーチクリーニング
平戸市生月町博物館・島の館	www.hira-shin.jp/shimanoyakata	#博物館		#講座
広尾町海洋博物館(併設:広尾町郷土文化保存伝習館「海の館」)	www.town.hiroo.hokkaido.jp/kankou/spot_rekishu.html	#博物館	#広尾 #漁業 #海洋生物	
船の科学館	www.funenokagakukan.or.jp	#博物館	#船舶	#カヌー
碧南海浜水族館・碧南市青少年海の科学館	www.city.hekinan.aichi.jp/aquarium	#博物館 #水族館	#海洋生物	#講座 #バックヤードツアー
ほたるいかミュージアム	hotaruikamuseum.com/museum	#博物館	#ホタルイカ	
北海道大学総合博物館分館 水産科学館	www2.fish.hokudai.ac.jp/modules/article/content0117.html	#博物館	#水産	
ホロカイアウトリガーカヌークラブ関西	www.hocok.com		#アウトリガーカヌー	#アウトリガーカヌー

名称	URL	形態	テーマ	アクティビティ
松浦史料博物館	www.matsura.or.jp	#博物館		
松浦市立鹿島歴史民俗資料館	www.city-matsura.jp/www/contents/1227840289309	#博物館	#元寇遺物 #水中考古学	
舞鶴地方総監部 海軍記念館	www.mod.go.jp/msdf/maizuru/kinenkan	#博物館	#海軍	
真鶴町立遠藤貝類博物館	www.town-manazuru.jp/shell-museum	#博物館	#貝	#磯観察 #ビーチコーミング #海藻押し葉 #フランクton観察
舞鶴引揚記念館	m-hikiage-museum.jp	#博物館	#引揚港	
マリンミュージアム海洋	www.marine-dream.net/contents/etsuzan.htm	#博物館	#能生 #歴史 #漁業 #環境 #漁船 #クジラ	
みくに龍翔館	www.ryusyokan.jp	#博物館	#三国 #歴史 #北前船 #港町 #文学	#講座
三菱重工業 (株) 下関造船所史料館	mhi.co.jp/company/facilities/shikan	#博物館	#造船	
三菱重工業 (株) 長崎造船所史料館	www.mhi.co.jp/company/facilities/history/	#博物館	#長崎造船所	
三菱みなとみらい技術館	www.mhi.co.jp/museum	#博物館	#深海潜水調査船 #しんかい6500 #地球深部探査船 #ちきゅう #深海生物	#工作 #講座
南さつま市坊津歴史資料センター隣津館		#博物館		
南島原市口之津歴史民俗資料館・海の資料館	www.city.minamishimabara.lg.jp/kyouiku/page4733.html	#博物館	#歴史 #三池炭鉱	
宮城県慶長使節館ミュージアム (サン・ファン館)	www.santjuan.or.jp	#博物館	#ガレオン船	
村上水軍博物館	www.city.imabari.ehime.jp/bunka/suigun	#博物館	#村上水軍	#講座
NPO法人森は海の恋人	www.mori-umi.org	#NPO	#環境教育 #森づくり #環境保護	#環境教育 #体験学習
玖別市氷海展望塔 オホーツクタワー	www.o-tower.jp	#博物館	#海洋生物	
野外教育事業所ワンバク大学	www.wanpakudaigaku.sakura.ne.jp		#野外教育	#指導者養成
山田町立絵と海の科学館	震災のため休館中	#博物館	#クジラ	
(財)ヤマハ発動機スポーツ振興財団	www.ymfs.jp	#財団法人	#マリンスポーツ	#ヨット #指導者養成 #セーリング #絵画コンクール
余市水産博物館	www.town.yoichi.hokkaido.jp/anoutline/bunkazai/hakubutsukan.htm	#博物館	#非財団 #船乗荷	
横須賀市自然・人文博物館	www.museum.yokosuka.kanagawa.jp	#博物館	#横須賀	#講座 #自然観察
横浜開港資料館	www.kaikou.city.yokohama.jp	#博物館	#横浜 #歴史	
横浜八景島シーパラダイス	www.seaparadise.co.jp	#水族館 #博物館	#海洋生物	
横浜みなと博物館	www.nippon-maru.or.jp/port-museum	#博物館	#横浜港 #歴史	#港見学 #船工作
リアルカイト	www.realkite.com	#ショップ	#カイトボード	#カイトボード
留萌市海のふるさと館	rumoi-rasisa.jp/rumoid/archives/branch/furusatoken	#博物館	#ニシン	
和歌山県立自然博物館	www.shizenhaku.wakayama-c.ed.jp	#博物館 #水族館	#海洋生物	#講座 #化石発掘 #野鳥観察
輪島市天領黒島海家	wajimanavi.lg.jp/www/view/detail.jsp?id=1002	#博物館	#北前船	

各団体の web サイトを確認しながらタグ付けを行った。結果、178 団体のタグ付けを行うことができた。一見あまり整理されていないように見えるが、このタグを元に検索等を行うことで、分かりやすい表現が可能となるであろう。また、作業当初、タグは特に分類することなく適宜当てはめていったが、作業をする中で、団体の形態、テーマ、アクティビティの 3 つに分類してタグ付けを行うと、作業がしやすいことがわかった。

一方、各団体の web サイトを確認すると、URL が変わった団体、解散した団体、現在は活動が変わっている団体などが多数存在した。このようなリストを公開する際に、団体の情報が変わってしまうのは避けられないが、いつ時点での情報であることを明記する、定期的に確認作業を行うなどの対処が必要になるだろう。また、タグ付けする際に判断が難しいことも多い。団体の意図しないタグが付けられてしまったり、作業員によるばらつきが出てしまったりすることも考えられる。

更に、各団体で行われている事業がいつでも参加できるものとは限らないことにも注意が必要である。年に 1 回のみイベントであったり、逆に通年で何度も参加する必要があるものなど、様々な種類があるため、その団体に問い合わせれば簡単に生涯学習を行えるという印象を与えないような工夫が必要かもしれない。

(1) 2016年度 海洋教育パイオニアスクールプログラム 募集要項案

2016年3月16日

2016年度 海洋教育パイオニアスクールプログラム 募集要項

1. 目的

海洋国である我が国にとって、海と共に生きる意識と資質・能力、そして態度を有する人材の育成は重要課題であり、海洋基本法においても海洋に関する国民の理解増進を掲げ学校教育等における海洋に関する教育の推進を謳っています。

このような観点から、日本財団、東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター、笹川平和財団海洋政策研究所では、海と人との共生を目指し、海に親しみ、海を知り、海を守り、海を利用する、海洋教育の普及充実を進めています。

海洋教育パイオニアスクールプログラムは、海洋教育を実践する小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校等に対する支援（助成および教育学・海洋学の専門家による支援）を通じ、海洋教育カリキュラムの開発と海洋教育の担い手の育成を行うことで、学校での海洋教育の面的な広がり と 質的な向上を図ることを目的としています。

2. 主催

日本財団 / 東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター / 笹川平和財団海洋政策研究所

3. 対象

全国の国・公・私立の小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校等

4. 募集概要

以下の2つの部門を募集いたします。

- ①単元開発研究部門
- ②一般部門

①単元開発研究部門

概要	重点テーマに沿った海洋教育を支援し、単元開発の高度な研究を目指します。
助成金額	1件の申請につき、上限100万円
助成件数	20件程度
重点テーマ	<p>2016年度は、以下のテーマに沿った単元計画を優先的に募集します。</p> <p>① 内陸地域における海洋教育の可能性</p> <p>② 里海に関連した学習活動</p> <p>③ 海洋と地球温暖化・気候変動の関係</p> <p>④ 海を通じた国際理解</p> <p>⑤ 海と人との関係をめぐる総合的な探究</p> <p>⑥ 未知なる海の探究</p> <p>⑦ 次期学習指導要領改訂の議論を踏まえた海洋教育（高校における「数理探究」、「地理総合」、「公共」、「歴史総合」）</p> <p>⑧ 地域の海洋素材を活かした「まちづくり」</p> <p>⑨ 海の観測・実験に基づいた学習</p> <p>⑩ 海洋を素材としたプログラミング学習</p> <p>⑪ 海洋と民俗・文化</p> <p>（例）</p> <p>①：「森や川から海洋教育を考える」</p> <p>⑤：「海と人との関係を探る：記憶を記録する」</p> <p>⑦：「海を通じた持続可能な地域作り」（地理総合） 「海洋政策と合意形成」（公共）</p> <p>⑩：「津波の物理と数値シミュレーション」</p>
対象期間	<p>2016年度に実施される活動（完了期限は原則として2017年3月15日までとします）</p> <p>※単元実施の期間は問いません。また、単元の長さ（時間数）も問いません。</p>
対象規模	対象児童・生徒数の規模は問いません。学級/学年/学校単位での学習いずれも対象とします。
審査の視点	<p>以下の視点等から総合的に審査し、決定致します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施内容と海洋との関連性(指導案・単元計画等がある場合は申請時添付してください) ・海洋教育の面的な広がりや質的な向上に寄与できるかどうか ・課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習（アクティブ・ラーニング）になっているかどうか

	<ul style="list-style-type: none"> ・複数学年での系統的な実施の可能性 ・実施成果を対外的に発信していく予定の有無（研究発表会・校内研究会等での発表等） ・支援期間終了後の継続実施の可能性 ・予算の合理性・妥当性 ・選択テーマに沿った実施内容になっているか
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センターから単元開発、授業実践に関する専門家のアドバイス・サポートを行うことが可能です。 ・「単元」とは、数時間～数十時間の一連の授業を指します。

②一般部門

概要	海を主題とする学習活動全般を支援します。
助成金額	1件の申請につき、上限50万円
助成件数	50件程度
対象学習活動	総合的な学習の時間や各教科、道徳・外国語活動・特別活動等において実施する海洋に関する学習活動全般
対象期間	2016年度に実施される活動（完了期限は原則として2017年3月15日までとします） ※単元実施の期間は問いません。また、単元の長さ(時間数)も問いません。
対象規模	対象児童・生徒数の規模は問いません。学級/学年/学校単位での学習いずれも対象とします。
審査の視点	<p>以下の視点等から総合的に審査し、決定致します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施内容と海洋との関連性(指導案・単元計画等がある場合は申請時添付してください) ・海洋教育の面的な広がりや質的な向上に寄与できるかどうか ・課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習（アクティブ・ラーニング）になっているかどうか ・複数学年での系統的な実施の可能性 ・実施成果を対外的に発信していく予定の有無（研究発表会・校内研究会等での発表等） ・支援期間終了後の継続実施の可能性 ・予算の合理性・妥当性

5. 申請条件

①成果物の提出

活動終了後、所定の様式にて完了報告書および海洋教育の単元計画を提出していただきます。なお提出された完了報告書および海洋教育の単元計画については、教育・研究活動や普及活動（印刷物・ポスター・web サイト等）のために使用させていただく場合があります。

②成果発表

終了後、指定のフォーラムやシンポジウム、研究会・学会等で活動内容についての発表を依頼する場合があります。

③別紙「補足説明資料」を必ずお読み頂き、海洋教育についてご理解いただいた上で、申請内容をご検討ください。

6. 対象となる経費

※以下の例を参考に、各学校・団体の会計規則などにあわせてご記入ください。

費目	内容
諸謝金	授業や研究発表会等への外部派遣講師など専門家に対する謝金
旅費交通費	校外活動や研究発表会等の実施に関連する交通費、他校の取り組み見学や勉強会へ出席するために必要な旅費など
消耗什器備品費	授業や研究発表会等に直接必要な機材や備品等の購入費
印刷製本費	プリント・研究発表会等で用いる配布物等のコピー・印刷費など
図書費	教材の購入費
通信運搬費	郵送料、宅配便代など
委託費	授業を外部機関と連携して実施する際や教材を外部委託によって制作する際に係る委託費用
茶菓食事代	外部派遣講師との打ち合わせ等で提供する飲料代など
雑費	少額かつ上記経費項目に含めることができない諸経費（保険料、写真代など）

※これ以外の用途についてはお問い合わせください

7. 申請方法

①必要書類

以下の書類をメールにてお送りください。提出いただいた書類は返却いたしかねますので、予めご了承ください。

(1)申請書（別紙様式）

電子データは笹川平和財団海洋政策研究所のウェブサイトからダウンロードいただけます。

(2)学校案内（児童・生徒数などが書かれたもの）※郵送可

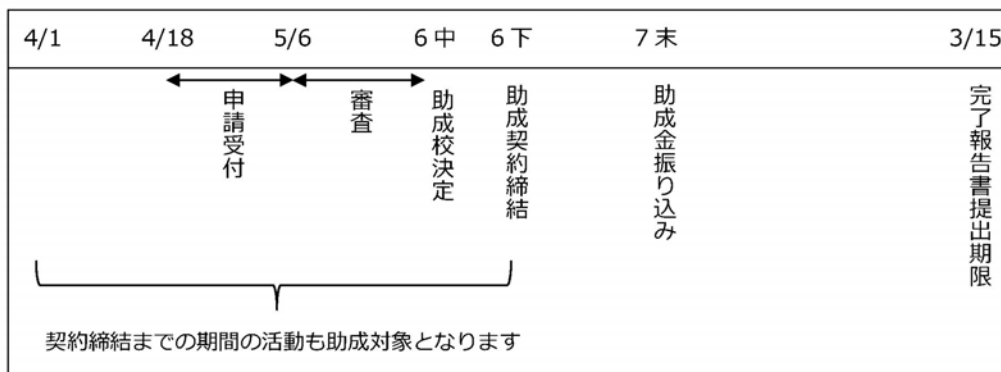
(3)活動補足説明資料（ある場合）※郵送可

②受付期間

2016年4月18日～2016年5月6日（必着）

- ・必ず学校長の了解を得てから申請してください。
- ・一校から複数の申請が可能です。複数の部門への同時申請も可能です。
- ・審査結果は決定後、速やかに通知します。決定前のお問い合わせには対応しかねますのでご了承ください。

8. スケジュール



9. その他

- ・実施に関する諸手続きについては、支援決定の際にご案内する「実施の手引き」をご覧ください。
- ・2016年度は、2017年度からの本格運用を目指して、試行的に実施します。

【運営事務局（書類提出・お問い合わせ先）】

〒105-8524 東京都港区虎ノ門 1-15-16 笹川平和財団ビル 6F

笹川平和財団海洋政策研究所 海洋教育パイオニアスクールプログラム事務局 酒井、藤川、上里

Tel: 03-5157-5261 Fax: 03-5157-5230 Email: ocean-education21@spf.or.jp

以上

海洋教育とは？

海洋教育は日本の未来を支える学校教育のテーマです

人類は、海洋から多大な恩恵を受けるとともに、海洋環境に少なからぬ影響を与えており、海洋と人類の共生は国民的な重要課題となっています。

海洋教育は、海洋と人間の関係についての国民の理解を深めるとともに、海洋環境の保全を図りつつ国際的な理解に立った平和的かつ持続可能な海洋の開発と利用を可能とする知識、技能、思考力、判断力、表現力を有する人材の育成を目指しています。この目的を達成するために、海洋教育は、海に親しみ、海を知り、海を守り、海を利用する学習を推進します。

海洋教育の4つのキーワード

海洋教育は、「海に親しむ」ことから始まり、「海を知る」ことで海への関心を高め、さらに海と人との共生のために「海を利用」しながら「海を守る」ことの大切さを学ぶものです。



海洋教育に関する教育課程特例校

海洋教育に関する教育課程を設置している特例校の一覧です。（平成 27 年 4 月 27 日時点・全 12 校）

所在地	学校名	科目名
岩手県洋野町	洋野町立中野小学校	海洋科
神奈川県逗子市	逗子開成中学校	海洋人間学科
東京都北区	北区立東十条小学校	海育科
東京都北区	北区立滝野川小学校	海育科
東京都北区	北区立王子桜中学校	海育科
東京都多摩市	帝京大学小学校	自然科
石川県能登町	能登町立小木小学校	里海科
愛知県刈谷市	刈谷市立富士松北小学校	みどりと水の地球科
和歌山県串本町	串本町立橋杭小学校	たていわタイム（海洋教育）
和歌山県那智勝浦町	那智勝浦町立下里小学校	海の時間
和歌山県那智勝浦町	那智勝浦町立宇久井中学校	海の時間
宮崎県串間市	串間市立都井中学校	海洋教育科

参考ウェブサイト

- ・ 東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター <http://rcme.oa.u-tokyo.ac.jp/>
 海洋教育とは <http://rcme.oa.u-tokyo.ac.jp/aboutus/Marine-education.html>
 海洋教育のカリキュラム開発—研究と実践— <http://rcme.oa.u-tokyo.ac.jp/reports/post875.html>
- ・ 笹川平和財団海洋政策研究所 <https://www.spf.org/opri-j/>
 「21 世紀の海洋教育に関するグランドデザイン」他
<https://www.spf.org/opri-j/projects/education/propulsion/progress/>

(2) 海洋教育パイオニアスクールプログラム webサイト案

海洋教育パイオニアスクールプログラムの web サイトはなるべく簡潔なものになるよう、必要十分な内容と構成を心掛けた。また、PC とスマートフォンの両方に一つのソースで対応できるようにスタイルシートを構成した（767px 以下のディスプレイではスマートフォン用のスタイルシートで表示）。

トップページ

全体の構成は以下の 4 つとした。

- ・海洋教育パイオニアスクールプログラムとは
- ・ご応募はこちらから
- ・最新情報
- ・海洋教育お役立ち情報

PC 用表示



スマートフォン用表示



以下、それぞれについて見ていく。

海洋教育パイオニアスクールプログラムとは

海洋教育パイオニアスクールプログラムの趣旨や背景を記載した。海洋政策研究所のこれまでの海洋教育事業をこの中にまとめた。

PC用表示

The PC version of the page features a large header with the title "海洋教育パイオニアスクールプログラムとは" and a sub-header "海と共生する未来を切り開く力の養成 ~海を通じた「世界と地域の未来」の想像力と創造力の育成~". The main text is arranged in two columns, with a photograph of students on the right. A navigation bar at the top includes "Menu" and "UP" buttons. At the bottom, there is a "サイトポリシー お問い合わせ" link and logos for the Marine Policy Institute, Tanihira Foundation, and The Nippon Foundation.

スマートフォン用表示

The smartphone version of the page is a vertical layout. It features a smaller header with the title and sub-header. The main text is arranged in a single column, with a photograph of students. A navigation bar at the top includes "Menu" and "UP" buttons. At the bottom, there is a "サイトポリシー お問い合わせ" link and logos for the Marine Policy Institute, Tanihira Foundation, and The Nippon Foundation.

ご応募はこちらから

応募要項、申込書、申込書記入例などを記載。年度毎に変更される。過去の年度のものについては、募集要項と応募状況をアーカイブしておくのも良いだろう。

PC用表示

The screenshot shows the PC version of the application page. At the top left is the logo for '海洋教育 PSP'. The main heading is 'ご応募はこちらから'. Below it, the text reads: '海洋教育バイオニクススクールプログラムへのご応募には以下の様式をご利用下さい。' (For application to the Marine Education Bio-nics School Program, please use the following forms.) A list of links follows: '▶ 応募要項 pdf(〇〇KB)', '▶ 申込書 pdf(〇〇KB)', and '▶ 申込書記入例 pdf(〇〇KB)'. Below the list, it states: '2016年度のご応募は〇〇月〇〇日です。' (The 2016 application deadline is 〇〇月〇〇日). On the right side, there is a vertical menu with options: 'TOPページ', '概要', '応募', '最新情報', and 'お役立ち情報'. At the bottom, there is a footer with the text 'サイトポリシー お問い合わせ' and logos for '海洋政策研究所', '笹川平和財団', and '日本 THE NIPPON 財団 FOUNDATION'.

スマートフォン用表示

The screenshot shows the smartphone version of the application page. At the top left is the logo for '海洋教育 PSP'. The main heading is 'ご応募はこちらから'. Below it, the text reads: '海洋教育バイオニクススクールプログラムへのご応募には以下の様式をご利用下さい。' (For application to the Marine Education Bio-nics School Program, please use the following forms.) A list of links follows: '▶ 応募要項 pdf(〇〇KB)', '▶ 申込書 pdf(〇〇KB)', and '▶ 申込書記入例 pdf(〇〇KB)'. Below the list, it states: '2016年度のご応募は〇〇月〇〇日です。' (The 2016 application deadline is 〇〇月〇〇日). At the bottom, there is a footer with the text 'サイトポリシー お問い合わせ' and logos for '海洋政策研究所', '笹川平和財団', and '日本 THE NIPPON 財団 FOUNDATION'.

最新情報

応募状況や支援事例、海洋教育関連のトピックスなど、最新情報を Facebook と Twitter でこまめに発信する。できれば1日3~5記事くらいは投稿したい。また内容はあまり固くなりすぎず、SHARP やタニタなど公式サイトのように親しみやすい内容も投稿していきたい。一方で、支援先の交流としての機能はそれほど期待できない。教員の多忙さやアカウント保有の有無の状況、情報発信の統制が難しいことなどから、両アカウントの友達追加やフォローは促すものの、コメントやリプライでの交流に留めるべきだと考える。

Facebook

PC用表示



スマートフォン用表示



Twitter

PC用表示



スマートフォン用表示



海洋政策研究所のこれまでの海洋教育事業

海洋政策研究所がこれまで行ってきた海洋教育事業をまとめて掲載する。

PC用表示

スマホ用表示

あんなせん うみべ 海辺の安全ハンドブック

海辺にはいろいろな楽しみがあります。たくさんの方々がいます。このハンドブックを参考に、海辺を安全に楽しみましょう！

クラス

名前

うみべ かつどう まえ 海辺で活動する前に...

海辺の活動を楽しいものにするために、次のことをチェックしましょう！

- いつ行く？
- どこへ行く？
- 何を？
- どんな危険がある？
- どうやって予防する？
- もし事故が起きたらどうする？
- 必要な準備は？

1444 海辺安全センター 徳川平利公園 海辺安全センター
 〒105-8574 東京都港区芝浦1-15-16 徳川平利公園ビル 6階
 電話 03-5157-5210 <https://www.apf.org/act/>

うみべ かつどう もしも海に落ちたら...

☆あはれずに静かに浮いて救助を待ちましょう！

あはれたり、声を出したりすると助かれません。仰向けで静かにしていると自然と浮くので、そのまま救助を待ちましょう。ライフジャケットやマリンスーツを身につけると浮くのが楽になります。

うみべ かつどう 海に落ちた人を見かけたら...

☆絶対に救助に行かないようにしましょう。
 ☆救助には特別な訓練が必要です。
 ☆訓練なしで救助に行くと一緒に溺れてしまいます。
 ☆まずは助けを呼びましょう。
 ☆浮きそうな物を渡しましょう。
 ☆声をかけて助きましょう。

その他

長時間つづけて泳ぐと体が冷やされて暑がなくなります。
→時間を決めて休憩しましょう。

海辺は日差しが強く、熱中症になりやすいです。
→帽子をかぶり、こまめに水分補給を。

長時間日光を浴びるとひどい日焼けで火傷のようなことがあります。
→日焼け止めや日除けを使いましょう。

メモ

海辺

泳ぐが落ちるスピードは想像より速い。
→事前に調べておきましょう。

泳が落ちるスピードは想像より速い。
→事前に調べておきましょう。

泳が落ちるスピードは想像より速い。
→事前に調べておきましょう。

泳が落ちるスピードは想像より速い。
→事前に調べておきましょう。

サンゴ礁

海辺の危険な生き物

サンゴ礁も刺傷は危険。
岩や硬いサンゴは切りやすく、ケガやオコシを傷むと大変です。
→足を踏まないようにしましょう。

危険な生き物もたくさんいます。
ハチやクマなどにも近づかないようにしましょう。
→事前に調べておきましょう。

すなま 砂浜

海の中は急に深くなる場所があります。
→浅い場所から入らないようにしましょう。

砂浜にも危険な生き物がいます。
クラゲやゴンズイなど注意。
→事前に調べておきましょう。

砂浜には様々な生き物が残っています。
ガラスやペットボトルなど、ゴミやカラスの糞などにも注意。
→ゴミやカラスの糞を避けましょう。

砂浜には様々な生き物が残っています。
ガラスやペットボトルなど、ゴミやカラスの糞などにも注意。
→ゴミやカラスの糞を避けましょう。

おなえ 港

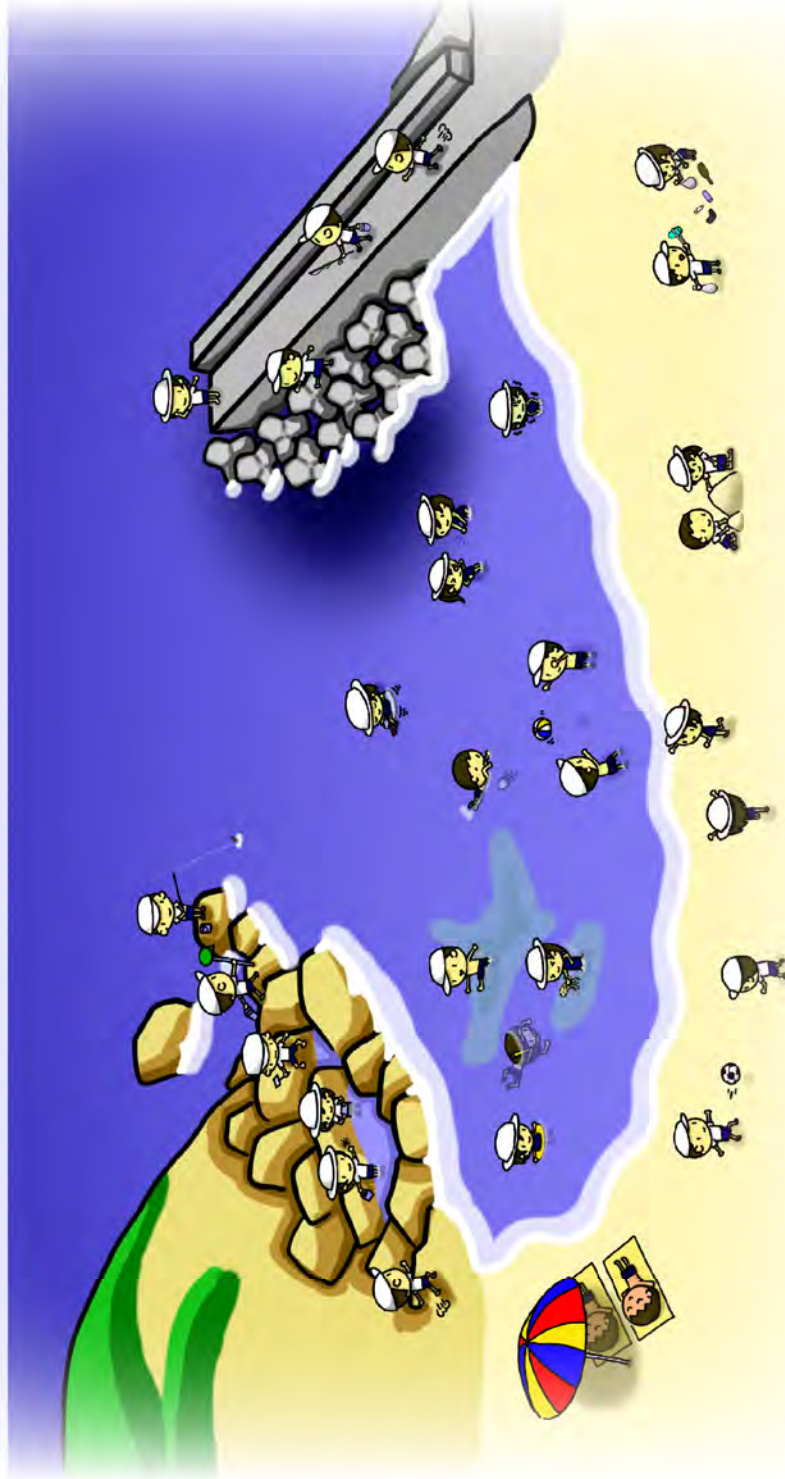
港には潮が早く入り、場所によっては危険です。
→事前に調べておきましょう。

港には潮が早く入り、場所によっては危険です。
→事前に調べておきましょう。

港には潮が早く入り、場所によっては危険です。
→事前に調べておきましょう。

うみべ 海辺に潜む危険マップ

海辺にはいろいろな楽しみ方や発見があります♪
 ですが、危険なコトもいっぱいあります！
 危険な目にあいそうな子がいます。探してみよう！！



本の作り方

① 中央に切り込みを入れる。



② 折り目をつける。

--- は山折り、
 - - - は谷折りに。

③ 半分に折る。



④ 切り込みから開く。



折り目に沿ってひろげる。

⑤ 完成！



この報告書は、ポートレースの交付金による日本財団の助成を受けて作成しました。

2015年度 学校教育における海洋教育拡充事業
(日本財団海洋教育促進プログラム) 報告書

2016年3月発行

発行 公益財団法人笹川平和財団 海洋政策研究所

〒105-8524 東京都港区1-15-16 笹川平和財団ビル
TEL 03-5157-5210 FAX 03-5157-5230
<https://www.spf.org/opri-j/>

本書の無断転載、複写、複製を禁じます。 ISBN 978-4-88404-337-7

